

## 2層協議体の構成と役割

### 提 言

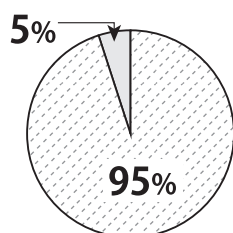
第2層協議体は、住民がどんな助け合い活動を求めているかを把握・共有したうえで、そのニーズに応えるため、住民が無理せずどんな活動が出来るのかを引き出し、SCとともに関係者と協力し合って形にしていこう！

### 登壇者

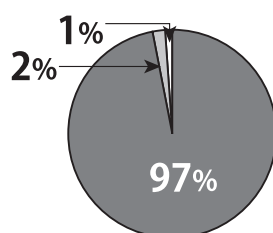
【進行役】	長瀬 純治	(公財) さわか福祉財団
【アドバイザー】	高橋 由和氏	(特非) きらりよしじまネットワーク事務局長
	山田 一志氏	川島町第1層SC
	内田 岳史氏	板橋区おとしより保健福祉センター
	太田 美津子氏	板橋区第1層SC
	河村 政徳氏	犬山市第1層SC

アンケートの結果 参加者概数：280名（オンライン：277名、会場：3名） 回答者数：74名

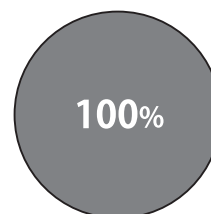
回答者の所属先



助け合い活動をすすめる立場の方



その他の方



## 議事要旨 長瀬 純治

本分科会は、「SCと協議体はどう役割を果たすか～SCと行政との連携、1層と2層の連携など～」のテーマを引継ぎ、「第2層の構成と役割」と題して、特に「第2層」に焦点を当てている。この狙いは「生活支援コーディネーターと協議体は一体となって、住民の求める生活支援活動を戦略的に楽しみながら引き出していこう。」という提言を受け、さらに現場の視点で実践への具体的な方法を掴むことにある。

今回は、埼玉県川島町、愛知県犬山市の第1層生活支援コーディネーター、また東京都板橋区からは加えて行政の担当者にもパネリストとしてご協力いただいた。事例では、第2層協議体の立ち上げから編成後の活動の様子とともに、その過程で展開された戦略と現場の試行錯誤の状況などが紹介され、画一的に進めることのできない本事業特有の難しさと、提言にもある、地域の特長を反映できる楽しさについて、具体的な現場のイメージを共有することができた。

今回アドバイザーとして協力いただいた「きりりよしじまネットワーク」事務局の高橋氏は、各事例に対するコメントの中で、関係者が「住民目線」を重視していることを指摘された。これは重要な指摘だ。第2層は特に、その活動に住民の主体性を期待される。しかしそれゆえに関係者の思惑通りには進まない。その結果、関係者の都合で、「住民目線」がおざなりにされてしまうケースが少なくない。事例では「住民目線」重視に向け、苦労してきた関係者の様子がうかがえた。

そこで後半は、「住民目線」を重視した関係者のバックアップの在り方とともに、第2層の構成と果たすべき役割について登壇者と協議を行った。

協議体は多様な主体で構成される。これに加え、この協議体のネットワークで協力する人々も、その顔ぶれは様々だ。第2層協議体では、共有した情報がこの多様性によって活かされ、様々な発想につながる。協議体は行政への陳情や批判が行われる場ではない。だからこそ、「住民目線」による協議に活動創出の可能性が期待されている。

「きりりよしじま」の活動には、住民自身によって何に取り組むかのアイデアを出し、その意見を活かす仕組みが活かされている。単に多数の意見があるから優先するのではなく、実践への可能性をふまえた合意形成や計画手順の確立など、これはまさに第2層協議体の役割として参考とすべき考え方と手法である。

また、実践の局面における議論では、創出される活動の立ち上げとその運営に向けた、資金面での支援不足の問題があげられた。この点については、創出された助け合いが継続し発展できる環境に必要な支援体制の強化は関係者だけでなく、第2層の生活支援コーディネーターの活躍も期待されるという意見も出された。

今回の議論を通じて「第2層の構成と役割」とは固定されたものではなく、その実績に応じて日々変化し、継続の中で発展していく必要性を強く確認することができた。

### ■ 寄せられた声から

- 高橋さんの「内発性と多様性の意識の醸成が地域の中でできているかが問題」が印象的だった。
- 「楽しさの演出」をするのがSCの役割という言葉が印象に残りました。板橋区さんの「地域づくり」を進めていく上での第1層SCが大切にしている4つの心構えが印象に残りました。4つともすごく大切なことでありながら、実際に行うとなると難しい面がありました。今後、自分が行う際の参考にさせていただきたいと思います。
- 太田さんの地域住民・協議体構成員に伝えた「逃げない」には衝撃が走りました。言葉に出すには勇気が必要だったろうなと思いました。

